

阿寒湖

(あかんこ)

位置：北緯43度27分、東経144度06分／標高：420m／面積：1,318ha／湿地のタイプ：淡水湖(カルデラ湖)／保護の制度：国立公園特別保護地区および特別地域／所在地：北海道釧路市／登録：2005年11月／国際登録基準：1

湿地のタイプ：淡水湖



マリモ



南から見た阿寒湖



朝日を浴びた阿寒湖と雄阿寒岳

湿地の概要：

阿寒湖は北海道の東部、釧路湿原からは北、瀧沸湖や網走湖からは南に位置し、阿寒摩周国立公園の一角を占めている。

阿寒火山の噴火活動によって約20～15万年前に形成された古阿寒湖(カルデラ湖)が雌阿寒岳1,499mや雄阿寒岳1,370mなどの火山活動によって縮小・分断された湖の一つで、標高420m、面積1,318ヘクタール、平均水深18.7mの淡水湖である。

北部には国の特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」が群生しているため、一般の立入を禁止し、世界唯一の大型球状マリモの保全を図っている。

湖には大島、小島、チュウルイ島、ヤイタイモシリといった4つの島があり、遊覧船やモーターボートでアクセス可能なチュウルイ島にある「阿寒湖のマリモ展示観察センター」では、マリモを見学することができる。

湖の周囲を取り囲む山々にはエゾマツ、トドマツなどの針葉樹と、ミズナラ、カツラなどの広葉樹が混在する針広混交林に

覆われ、山頂部にはハイマツやガンコウランなどの高山植物が生育している。このように阿寒湖は、湖と森と火山の織りなす、日本を代表する山岳自然景観である。

守られてきた集水域：

阿寒湖周辺の山林3,900ヘクタール、つまり集水域は、個人の所有地として1900年代初頭から森林経営が行われてきた。その後、1983年に所有を受け継いだ人々によって自然保護財団が設立され、厳しく維持、管理されている。

こうした良好な環境のもとで阿寒湖と周辺の森林には、北海道を代表する大型哺乳類のヒグマやエゾシカをはじめ哺乳類24種、クマガラなど鳥類65種が生息している。

希少な水生生物：

阿寒湖にはヒメフラスコモ、カタシャジクモ、シャジクモ、そして最もよく知られているマリモなど、多くの希少な藻類が確認されている。

魚類でも、ここがアジアにおける天然分布の南限となっているヒメマスや、日本最大の淡水魚のイトウ、貝類ではカワ

シンジュガイなどが生息している。

【マリモ】 枝分かれした糸のような形を持つ緑藻類の一種。環境条件によって球状の集合体に育つことで知られ、阿寒湖では世界に例を見ないピロード状の表面を持つ美しいボールになる。直径が10cmを超えると内部が空洞化し、台風などの攪乱によって壊れて断片化することがあるが、長い時間をかけて再び球形に育つ。

●関係自治体

釧路市役所 Tel: 0154-23-5151

